



シャーマンと女神 - クライアントの□□□

The shaman and the Goddess – a client story

The Tribal Elder/Sharman and the Atlantean/Egyptian Goddess

By Ras Namaste © 2015, all rights reserved

シャーマンと女神 - クライアントの体験談 部族の長老(シャーマン)とアトランティス(エジプト)の女神

神々の時代？

正に感謝感激だ。またしてもこのような素晴らしいクライアントが存在してくれてくれたこと、そして、この素晴らしくて、驚異的で、信じられないような過去世をQHHTのセッションで見えてきたことを、私に公開する許可を与えてくれたことに、感謝のしようも無い。この過去世も最初は極平凡なものだった。でも、もう皆さんもお分かりと思うが、私のセッションで起きることは平凡のままで終わることがほとんど無い。このセッションは私のセッションとしては最も長いものであった。セッションが2時間を越えることは、普通は勧められていない。だが、潜在意識(SC)はセッションを終わりにさせてくれなかったのである。我々に、実に色々なものを見せてくれ、過去世の色々な断面を次々と飛び越えながら進んでいった(でもこのこと自体はセッションでは普通だ)。長い時間はかかったが、全てのは完璧だったと思う。なぜなら、二人の奇跡的なヒーリングを同時に行なうことが出来たからだ。一人は数キロも離れたところに居たのだが、その人のヒーリングを依頼したら、3分か5分ほどしたら、二つあった体調の不具合が「すべて無くなった」と伝えられた。私は、私たちすべての中にある隠された、この力の強さに圧倒されてしまった。それでは、この喜びを楽しんでもらいたい。

————部族の長老(シャーマン)と女神 - 偉大な話————

クライアント：私はスピードを上げています。

クリス：貴方がいるトンネルは、どのようなものか教えてください。

クライアント：黒くて、暗くて、典型的なトンネルのようです。でも出口が見えませんし、誰も居ないし、何もありません。

クリス：分かりました。それはトンネルのような構造をしていて、貴方は下に向かって猛スピードで移動しているのは分かってますよね。では出口に到着するまでしばらくそのまま進みましょう。(ちょっと間をおく)もうトンネルから出ましたか？それとも未だ移動を続けているのですか？

クライアント：今地面の上に居ます。地球は砂のように感じます、、、岩もあります、白い岩が見えます。

クリス：砂はどんな色ですか？

クライアント：茶色っぽいオレンジです、泥のような色です。

クリス：他に何か見えますか？

クライアント：草が見えます、岩もたくさんあります、崖のようなものも見えます、、、ちょっとグランドキャニオンのような感じにも見えます。崖がたくさん見えます（ワオー！）かなり乾燥している感じです。

クリス：では恐らく、そこには人があまり住んで居ないでしょうね？

クライアント：そうですね、誰も居ません。風に吹かれて砂が舞っています。

クリス：猛烈な風ではない？

クライアント：はい、でも強い風で、砂が巻き上がられています。（ああ、なるほど）黒い人が黒い素足で急いで歩いているのが見えます。

クリス：どうして急いでいるのか分かりますか？

クライアント：どこかに急いでいくのです。

クリス：貴方はその人と一緒に居るのですか？

クライアント：その人の後ろに居ると思います。

クリス：彼についていくのですか？

クライアント：はい、、、彼は羽のようなものを、、、黒と灰色で、、、葉のようなものを身につけています。

クリス：そうですか。それは自然の材料で作られたものですか？

クライアント：はい、自然のもので作られています。

クリス：素晴らしい！それで、貴方はこの急いでいる人の後についていくのですか、その人は黒人で、場所はグランドキャニオンに良く似た場所です。

クライアント：はい。

クリス：そこは、今暑いのですか？

クライアント：風がありますので、ちょっと寒いです、、、いまその人は崖のふちを私に見せています。（はい）下にある川を見せています。川の水は干上がっています。（その部族の人が彼女に話している風にして）雨が降らないから。

クリス：おや、そうなのですか。それで彼は急いで貴方に見せようとしたのですか。

クライアント：はい。私にそれを見せています。

クリス：下に降りて行って川を見るのですか？

クライアント：いや、川はかなり下にあります。

クリス：ああ、そうですね（グランドキャニオンの深さを思い出した）下に行くまでかなり時間がかかりますよね。そこはかなり高いところなのですね。川が干上がっているのは、人々にとって良くないことなのですね？

クライアント：そうです。水がありませんから。

クリス：でも何か方法があるでしょう。下に降りて掘ってみるとか。（返事は無い）早魃が続いているようですね？

クライアント：そうです。でもどうして干上がった川を見せられているのか分かりません。

クリス：かまいませんよ。すべてのものに理由はあります。全てのものが理屈にかなったものであることがすぐに分かると思いますよ。ですからそのときが来たら理解できると思います。でも今の時点では早魃だということです。早魃の可能性があるとということです。川が干上がってしまうのは人間にとっても動物にとっても、普通は良くないという事ですよね？

クライアント：そうです。

クリス：彼がそれを貴方に見せている重要性について話してくれますか？

クライアント：彼は私に事態を変えてもらいたいと思っていますようです。何かしろと。

クリス：川に水を流して欲しいのですか？

クライアント：はい。

クリス：それを貴方が出来ると思っているなんて、貴方はかなり彼の信頼があるのですね。それとも貴方にアドバイスを求めているのです？

クライアント：彼は何が起きたかを私に教え、そこから彼を助けるように私に依頼しているのです。

クリス：助けることが出来たら、それは良いでしょうね、まあ、それが貴方にとってきつい仕事でないのならね、、、雨を降らせるとか（彼女に雨を降らせることが出来るなんて私自身は想像さえしていなかった。このような質問が私の口から出ると言うのは潜在意識か光が質問しているのだと、確認できる）それで、彼を助けることは出来るのですか？

クライアント：そうですね、、、お祈り？

クリス：では実際に、水を求めて穴を掘ることはしないのですね？

クライアント：しません。お祈りをします。

クリス：それで雨が降るのですか！では、祈るのですね、そうすると雨が降る、そうですね？（はい）そして川に水が戻る、そうですね？

クライアント：はい。

クリス：貴方の方法を説明してください。どうしたらお祈りで雲が来るのですか？

クライアント：頭を上げて、空に向かって祈ります（はい）そして雨に降るように頼むのです。

クリス：それは簡単な方法ですね。

クライアント：そうするとかなり大粒の雨滴が落ちてきます、、、雨が降るのです。

クリス：雨に降るようにお願いしたのが成功したのですね。

クライアント：雨粒は体に当たっています。かなり大きいです。

クリス：成功しましたね！そのことによって、正しくお願いすると、雨が降ることが分かります。大きな雨粒ということは、貴方の仕事は大成功ですね？

クライアント：そうですね、かなり大粒です。体に当たると痛いです。

クリス：想像できます。はい。

クライアント：私たちは皆踊っています。

クリス：当然でしょう。

クライアント：彼も笑っています。

クリス：（笑って）これなら彼も本当の雨のダンスを踊れますね。

クライアント：はい。

クリス：貴方は、エネルギーにお願いしたら、それが雨を運んできたことを知ってますよね？二人で同じお祈りをしたのですか？

クライアント：はい、ただ雨に来てくれるようお願いするだけです。（実際降りましたよね）はい。

クリス：いかに私たちが、地球と繋がっているかの証明ですよ？

クライアント：はい。

クリス：二人で踊ってますが、他にも人は居るのですか？

クライアント：いや、彼と私の二人だけです。

クリス：貴方はその村人なのですか？

クライアント：はい。村はあるのですが、誰も住んでいないと思います、、、

クリス：はい、分かります。貴方はその仕事をする為にそこに居るのですよ？（はい）川に水を流す為ですよ。分かりました。では、貴方が住んでいる場所に行ってみましょう、住処を外から眺めてください。

クライアント：もと来た道を歩いています。

クリス：貴方の家の傍まで行きましょう。家の外観を説明してください。でももし他に、貴方が見る必要な物があったら、それを教えてください。川は水で一杯になったのですよね？

クライアント：はい、川は水で一杯です。

クリス：貴方には大きな力があるのですか？（沈黙）他の人が貴方に依頼に来たのには、それなりの理由があるのですよ。彼は貴方の何かを知ってましたよね？

クライアント：私は彼らの一員ではありません。

クリス：大丈夫ですよ、それでも、彼は貴方に願い事を持ってきたのですよ？

クライアント：はい。

クリス：そして、ただお願いされただけで、貴方はそれを受け付けました。

クライアント：彼が私に助けを求めたので、私のほうから来たのです。

クリス：なるほど、すごいですね！貴方は遠くに居ても彼の呼びかけが聞こえたのですか（俄然興味わいてきた）分かりました。それでは貴方の足を見てください。何か履いていますか？

クライアント：はい、皮です。紐で結ぶ、兵士が履くような靴です。（エジプト風だが、

ローマのサンダルに似ている)

クリス：そうですか、サンダルのような物ですね。

クライアント：私の皮膚の色は薄い色です（白ではなく、すこし日焼けしたような色）

クリス：身につけている衣類はどんな感じですか？

クライアント：ある種の布です。羽のイヤリングを着け、黒くて長い髪の毛をしています、、、光っていてとてもきれいです。

クリス：では、貴方の家に行ってみましょう。貴方は先ほど一緒に歩いていましたよね、だから二人は一緒に住んでいると思いました。でも貴方はそうではなく、彼が貴方の場所に訪ねてきたと言いました（これは私の間違いで、実際は彼が助けを求めて彼女を呼んだ）。そして貴方は彼を助けてやりました。では、今度は貴方の家に行ってください、そして家の外観がどんな風か教えてください。

クライアント：今彼に別れの挨拶をして、彼と別れました。

クリス：分かりました。もう彼から学ぶことが無ければ、、逆に、彼が貴方から学ぶことが無ければ、そのまま別れて先に進んでください。では今、家に向かっているのですね？

クライアント：何も無い、川の土手があります。その方向に向かって歩いています。

クリス：何も無い、と言いましたが？

クライアント：その辺りに何も無いのです（木らしいものは無いのですね）はい。傍らに大きな岩があり、ビーチのように見えます。木は全くありません。平地がそのままビーチに繋がっています。

クリス：なるほど！ところで貴方の家はありますか？

クライアント：えーと、ありません。

クリス：かまいませんよ。では貴方が住んでいるところに行ってください。雨風をしのげる場所です。そのような場所は必要ないのですか？

クライアント：ないです。

クリス：貴方の目的と、実際にそこで何をして居るのか教えてください。（沈黙）男の人が貴方に助けを求めに来ましたよね。ですが貴方は大変な仕事を難なくやってのけました。貴方は大変力のある人です。雨を降らすことが出来たのですから。

クライアント：助けを求められたら、ただ来るだけだと思いますよ。

クリス：助けを求められまでは、一人で平和に生きているのですか？

クライアント：そうです。のんびりしています。平和で、かつ力強いです。

クリス：よく分かります。そのような力をどのようにして手に入れたのですか？空と雨の知識を学んだのですか？

クライアント：彼女はべつな社会の人だと思います。この土地には住んでいません。どこか別な場所から来るのです。（今話したのは光なのか、それとも潜在意識なのか、それと

も彼女自身の意識なのか？)

クリス：その場所は、この惑星からかなり離れた別の恒星のシステムにあるのですか？

クライアント：それは、、、空気中にあります、でもピラミッドの形をしています。(はい) 三角形です(はい)でも浮いています、空中に留まっています、、、かなりの高所で、そこにみんなが居ます。そこの人たちが、いま彼女を迎えに来ました。



クリス：車で迎えに来るような感じですか？

クライアント：はい。

クリス：迎えに来たのですね、どのような方法でピラミッドまで戻るのですか？

クライアント：地面に降りてきます。

クリス：プラットフォームのようなものですか？

クライアント：プラットフォームのようなもので、誰かが彼女の手をとって、彼女は中に入りました。

クリス：中はどうなっているか教えてください。

クライアント：小さな階段のようなものがあります、、、

クリス：そうですか、ではその階段を上りましょう、するとそこには数人の人が迎えてくれる、そうなのでしょ？(はい)一人の女性が貴方を上に引き上げてくれるのでしょ？(どうして私は女性と言ったか分からない)

クライアント：いや、全員男性です。

クリス：そうなのですか、失礼！その男性たちはどのような姿をしているのか教えてください。髪の毛はどんな感じですか？

クライアント：ある人の毛は、先ほどの男性のように黒です。(はい)ある人は私のよう

に肌の色は薄い色で、髪の毛は黒っぽくて長いです。

クリス：髪の毛は皆長くしているのですか？

クライアント：はい、肩まであります。そして筋肉質で頑強な体をしています。皆長い棒を持っています。素足の人も居ますし、靴の人も居ます。靴は皆同じです。紐で結ぶタイプです。

クリス：ローマ時代のサンダルのようなですね。

クライアント：はい。

クリス：では一人の人だけ見て下さい。着ている衣服がどんな風か教えてください。

クライアント：皮で作ったようなスカートを履くいています、動物の皮だと思います（はい）胸には何も着けていません。あるのは銅か真鍮のネックレス程度です。

クリス：あまりたくさん身につけることはしないようですね。今はピラミッドの中に居るのですか？

クライアント：はい。

クリス：どのようにして入ったのですか？入れるような穴でもあったのですか？（なぜかその時、私は入り口の様子が知りたかった）

クライアント：一つの面が開いていました、閉じていなかったのです。

クリス：では、そのままは入れたのですか。（はい）あの、プラットフォームですが、ピラミッド同様、空中に浮かんでいたのですか？

クライアント：全てのものが地上すれすれに浮かんでいます、ですから地上から足を入れられます。

クリス：そうなのですか、私は上に浮いて行って入るのかと思いました。

クライアント：そうではなく、みんな下に降りてきてくれました。

クリス：ピラミッドが下に降りて来てくれたのですか。

クライアント：はい。私は今休んでいます、座っています。

クリス：雨を降らした後の休憩ですか？

クライアント：はい、、、

クリス：彼らが貴方を呼んだときに、貴方には呼ばれたことが分かったのですか？

クライアント：私がどこに行くべきなのか分かるのです。

クリス：ただ「分かる」のですか？（はい）分かったら、それに応えるだけですか。

クライアント：みんなが知っています、誰も話すことはしません（ただ分かるのですか？）はい、皆はただ分かります。

クリス：分かりました。皆ピラミッドの中に入ったので、また浮き上がるのですか？

クライアント：はい、今移動しています。

クリス：素晴らしいです。ピラミッドの中に居る貴方に、中の様子を伝えてもらいたいと思います。

クライアント：自然のもので出来ています。重たいものではありません。

クリス：では中は極自然に見えるのですか？

クライアント：はい。

クリス：自然と言うと、木材とか石で出来ているのですか？

クライアント：はい。

クリス：では、ある程度までは自然ですね、、、まさか木等は生えてないですよ？（笑う）

クライアント：生えてないです。

クリス：ピラミッドは作られたものと思っても良いですね？

クライアント：今移動しているのですが、誰かが何かをしている様子ではないのですが、動いています。

クリス：それ自体がどこに行くのか知っているのかもしれませんがね。乗り物によっては自身の意識を持っているものがあると聞いたことがあります。そのピラミッドがそうかどうかは分かりませんがね、、、今は誰もその船を操縦していないのですか？

クライアント：はい。操縦室がありません、まるで生きているテントのようで、、、動くのです。

クリス：外観は石で出来ているように見えるのですか？

クライアント：いいえ、石ではありません。

クリス：でも、ピラミッドの形をしているのでしょ。外観がどうなっているか教えてください。何で出来ているのですか？

クライアント：えー、何かとても強い厚い布のような材料です、

クリス：それならかなり強いものですよ？

クライアント：はい、その通りです。

クリス：中を見渡して、貴方と一緒に居る人は目的を知っているはずですよ。貴方も貴方の目的を知っているはずですよ。皆さんは一体何をするのが目的なのか教えてください。

クライアント：皆はただ私を家に連れ帰っているだけです。私は家に帰りたいと思っています。私は彼らの首長のようです。

クリス：すごいですね、それなら納得できます、それでは今皆さんが居るピラミッドは、皆さんをどこかに連れて行ってるのですか？

クライアント：はい。

クリス：どこに貴方を連れて行く気なのか、どこに連れて行く気なのか（間をおく）もし答えて貰って差し支えなかったら、そうした情報を知りたいのです。また別な乗り物がある所に行くのですか？（母船のことが頭にあった）それとも宇宙に向かうのですか？

クライアント：水の上を移動しています。

クリス：それはどこにでも浮くのですか？

クライアント：水の表面ではなく、上を飛んでいます。止まりたいときにはいつでも止まれますよ。

クリス：そのピラミッドは貴方の住処なのですか、それとも違うところに帰るのですか？

クライアント：はい、私はここに住んでいるようです、そのように見えます。

クリス：それでは、そこの皆さんと一緒に住んでいるのですね？

クライアント：はい、みんなが私の世話をしてくれます。

クリス：すごいですね、貴方の安全を守っているのですね。

クライアント：はい。

クリス：貴方はそこの首長ですね（はい）貴方の知恵が必要とされていて、必要なら貴方のところに来る（はい）知恵とかアドバイスを求めて。

クライアント：はい。

その後で重要な日に行ってもらったら、彼女は別な人生に入ってしまった。それはごく普通の人生で今までのいきさつと全く関係のないものであった。そのときに、その前に見た過去世に戻ってもらうことも可能ではあったが、潜在意識は常にその人が見る必要のあることを、最善のタイミングで見せてくれることを私は知っていた。

このセッションに加え、ドロレス著作の本で「天才」ノストラダムスが話した男はケシュ財団の創始者のように思われる。その創始者によると、彼の技術で宇宙を飛ぶことができる可能性が高い、しかも木製の乗り物でもそれが可能だそう。その乗り物の内部には地球の大気に近いものがあり、重力もあり、風もあり、重力圏の電磁場を超えないそう。彼はその技術を一般公開した。「自分の自動車で宇宙を飛行することを想像してください、何の訓練も必要としない、そのようなものが可能なのです」と彼は言う。未来は正に明るいと言えます！更なる恵みがありますように！

ラス・ナマステ（クリス・ターナー）記 誉田光一訳

QHHT Practitioner: (Chris Truner)

Practitioners website: www.quantumhealingcentre.co.uk

Want to learn how to take someone into a past life

By Ras Namaste © 2015, all rights reserved

If you wish to learn how to take someone into a profoundly meaningful and healing past life using one of the most powerful ways know to man. (albeit a little challenging sometimes) then simply visit www.QuantumHealingCentre.co.uk

If you would like to book a session with Chris please visit the [Prices](#) page for a selection of Session options

– Skype Sessions are now available –

Read more [Client Stories](#) on our web site.

Visit our open Client Stories [Facebook Group](#)



Visit our open [Regression Healing](#) facebook Group

Dedication: I would like to thank everyone who has inspired me, used me as a QHHT Guinea Pig, all of my incredible clients, those who've encouraged me and helped me both near and afar, seen and unseen, future and past, you will know who you are, YOU are the true Heroes and Heroines! Stay Shining!



© 2014 – Ad Infinitum. All rights reserved